



(糸魚川)

木簡は、平安時代から中世の自然流路の岸の遺物包 含層から一点出土した。自然流路からは、大量の製塩 土器や斎串・八稜鏡などの祭祀遺物が出土している。

田伏山崎遺跡は、弥生時代後期～古墳時代前期の遺物散布地、古墳時代後期の集落跡などからなる複合遺跡である。

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
6 遺跡の年代 弥生時代後期～古墳時代後期、平安時代～中世
5 遺跡の種類 遺物散布地・集落跡・祭祀遺跡
4 調査担当者 佐藤友子
3 発掘機関 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
2 調査期間 2007年(平19)四月～九月
1 所在地 新潟県糸魚川市大字田伏字山崎

木簡の年代は出土層位から、平安時代から中世と見られる。一行目の二文字目は「午」の可能性もある。刃物で中央、左右両辺が切断されており現状で六断片に分かれる。廃棄の過程が復元できる資料である。

215×47×5 051

8 木簡の篆文・内容
(1) 「子カ」 十 午
□ 午 □ □ □

(佐藤友子)

赤外

